○9番（菊池伸也議員） 9番菊池伸也です。ただいま議長から発言のお許しをいただきましたので、通告に従い一般質問いたします。

最初に、産業振興について、（1）の観光行政の確立について4点お伺いいたします。

本市の産業は農業を主とした第一次産業が基幹産業であります。著しく少子・高齢化の進んでいる現状では、基幹産業の存続さえ危ぶまれるようなことも十分に考えられます。そういう状況下においても、観光事業は本市の元気なまちづくりに大きな役割を果たすことは間違いないと思います。

そこで、①の本市の観光行政について、交流人口拡大に向け、新たな政策取り組みについてお伺いいたします。

本市には、観光拠点と呼ばれる場所は、竜神ダム湖の上にかかる竜神大吊橋を始めとする奥久慈自然公園、プラトーさとみ、西山荘、佐竹氏や徳川家にかかわる神社仏閣など数多く残っています。今後、大いに期待が持てると思います。

忘れてならないのが、太田地区の鯨ヶ丘の歴史的建造物であります。ただ、こうした歴史的建造物や自然景観にしがみついただけの観光地や単に温泉が出るというだけの観光地ではその集客数の減少に歯止めはかけられないと思います。以前にも申しあげましたが、今の観光客は歴史的建造物や自然景観を見ただけでは満足しません。その土地、そのときにしかできない体験をして、おいしいものを食べ、ゆったりとした旅館に泊まり、気のきいたお土産を買うことができれば満足度がアップし、リピーターとしての期待につながるのではないかと思います。

そこで、本市の観光産業をどのようなお考えのもとに交流人口の拡大を図る計画なのか、あわせてお聞かせ願います。

次に、②の竜神大吊橋のさらなる魅力アップに係る取り組みについてお伺いいたします。

ご承知のように、竜神大吊橋においては、長期間にわたり、春の鯉のぼりまつり、夏の灯ろうまつり、秋の紅葉まつり、冬のそばまつり等のイベントに力を入れてきましたが、イベント中にはぎわいを見せますが、普通に竜神大吊橋を渡るだけでは観光客にとり、それほどの満足感はないようです。観光案内のボランティアなどのときに、旅行会社のガイドさんや観光客に指摘をされることがたびたびあります。それは、竜神大吊橋を渡った先に魅力が何もないとたびたび言われております。そこで、魅力度アップのために、ぜひとも取り組んでいただきたいのが竜神大吊橋の正面の小高い山に展望台設置を検討して、ぜひとも実現していただきたいと思いますので、執行部のお考えをお伺いいたします。

参考までに申し上げておきますと、小高い山の上は高倉城、これは竜ヶ井城とも呼ばれております。城跡でもあり、今も城の面影をとどめていると言われております。鎌倉時代のころ、国井経義がこの地方を擁して高倉氏を名乗り、ここに館を築いて居住したと言われております。

次に、③新たなイベントの創設についてお伺いいたします。

観光産業が地域の元気を生むことは理にかなっていると思います。新たな客層の確保と知名度アップのためにも、世界各地でさまざまな形で取り込まれ、観光発展の引き金にもなっているバンジージャンプを現在は日本バンジーとの協定のもとで実施されており、バンジージャンプを好

むお客様方が本市の竜神大吊橋を訪れ楽しんでくれておることは承知しております。

そこで、さらなる魅力アップの取り組みについて執行部のお考えをお聞かせ願います。

次に、④竜神ダム湖でのカヌー体験の状況について伺います。

客層は比較的若い家族連れ、若者のグループの集客が予想されますが、今までに利用されたお客さん方の客層はどのような方が利用されていたのかと今後どのようにしてお客の確保に努めるお考えなのかをお聞かせ願います。

次に、中山間地の農業政策について1点お伺いいたします。

①中山間地の農業従事者の高齢化に伴う今後の農業のあり方についてお伺いいたします。

私の住んでいる地域でも農業従事者の高齢は確実に進んでおります。水稻栽培に関しては、まだ数年間は現状維持ができそうですが、畑に関しては居住地周辺の畑を含め、耕作放棄地になるのではと心配です。東日本大震災が起こるまでは、農業を志す30代の若い家族が畑作を熱心に取り組んでいて大変たのしく感じておりました。震災後は、放射能の関係で本市での農業をあきらめて、現在は広島県で農業を営んでいると聞いております。

そこで、中山間地での農業について、執行部ではどのような政策のもとに農業政策を進めていくお考えなのかお聞かせ願います。

次に、暮らしやすい居住環境の整備について。(1)の幹線道路整備について2点お伺いいたします。

最初に、①県道29号線の狭隘な部分の改良工事についてお伺いいたします。

この道路改良に関しては、道路にかかわる地区の町会長が連名で要望書を作成、地権者の同意書添付の上、提出をしておりますので、工事がスムーズに進むかと思いましたが、中断されたままになっております。

そこで、改良工事がどのような理由で中断されたままになっているのかお伺いいたします。

この道路は公共交通のバス路線でもあり、地域に住まわれている方にとっては、大切な道路であります。そのことを踏まえて今後どのような考えのもとに進められていくのか、あわせてお伺いいたします。

次に、②の国道461号線のトンネル工事進捗状況と水道工事の進め方について伺います。現在、水府里美間の北沢トンネルが順調に進められていることと思います。このトンネルが完成すると同時に、水府北部の簡易水道が里美の南部水道と連結され、供給を開始する計画になっております。そこで、トンネル工事の進捗状況と水道工事の進め方についてお伺いします。

次に、(2)の生活道路整備について1点お伺いいたします。

①の山田川にかかる桜沢橋の架け替え工事と県道33号線の取り付け道路の改良工事についてお伺いいたします。この工事の要望書については、合併当初の平成16年に天下野町2区と天下野町3区の町会長さんが、当時は区長さんでしたが、どのような道路改良するかを含め行政指導のもと、地権者の同意を取り付け、市に要望書を提出したことは以前の一般質問で述べたとおりであります。その際のご答弁では、過疎自立促進事業が終了することから、国の橋梁長寿命化修繕計画策定事業補助制度を活用し、点検調査結果に基づき、平成23年度にかけかえを含めた長

寿命化計画を作成し、これに基づき整備を進めるということでありました。また、この地区には未整備の市道があることから、地域全体の整備計画を策定し、その中で取り付け道路の整備を検討していくということでありました。

そこで、改めてお伺いいたします。現在、山田川にかかる桜沢橋の架け替え工事と大変危険で利用しづらい県道33号線の取り付け道路の改良工事については、どのようなお考えなのかお聞かせ願います。

以上で1回目の質問を終わります。

○成井小太郎議長 答弁を求めます。商工観光部長。

[小瀧孝男商工観光部長 登壇]

○小瀧孝男商工観光部長 産業振興についての中の観光行政の確立について、4点のご質問にお答えいたします。

まず、1点目の本市の観光行政において、交流人口拡大に向けての、新たな政策取り組みについてでございますが、本市では、県や市観光物産協会と連携を図りまして、これまで竜神大吊橋からのバンジージャンプやダム湖を利用したカヌー等の誘致、また、団体旅行に対する助成やプレミアム旅行券の発行、観光客のレンタカー利用に対する助成、旅行会社と連携した着地型観光バスツアーの企画催行、教育旅行における農家民泊の拡充等々に取り組み、交流人口拡大を図ってきたところでございます。

また、観光施設の整備といたしましては、水府観光物産館のリニューアルによる竜神カフェへの整備や水府観光物産センター、2階バルコニーの拡張を初め、ぬくもりの湯リニューアルや金砂小学校体育館へのボルダリングウォール設置など、交流人口拡大に向けて取り組んでいるところでございます。

なお、茨城空港における国際定期便は中国、韓国に加えまして、台湾からのチャーター便が本年10月末から定期便として就航するなど、茨城空港を利用する外国人旅行者増が見込まれますことから、外国人旅行者向けの誘客プロモーションや受け入れ態勢の整備を図りまして、交流人口拡大をさらに図ってまいりたいと考えております。

2点目の竜神大吊橋のさらなる魅力アップに係る取り組みについてでございますが、議員ご発言にございました竜神大吊橋正面の小高い山への展望台設置につきましては、対岸の整備としまして、現在整備が進められております奥久慈グリーンライン林道整備に合わせた竜神ふるさと村へのアクセス道路の拡幅整備をまずは優先して検討してまいりたいと考えております。

3点目の新たなイベントの計画についてでございますが、竜神峡エリアでは年4回、四季ごとのイベントを水府まつり実行委員会が中心となって開催しておりますが、さらなる誘客が図られるよう市観光物産協会と連携を図りまして、イベント内容の充実を図ってまいります。

また、新たな体験メニューとしまして、本年4月からサーフボードの上に乗ってオールをこぐサップを始めたほか、現在竜神ダム湖対岸に休憩スペース等の設置を検討しており、新たな誘客促進に向けた取り組みとともに、本市内での滞在時間が延長するようなメニューづくりに取り組んでいるところでございます。

4点目の竜神ダム湖でのカヌー体験利用客の状況についてでございますが、平成28年度の利用者数は479名、平成29年度の利用者数は840名であります。また、本年8月末での利用者数は698名で昨年度の同時期と比較いたしまして、145名の増となっております。なお、本年度の利用者内訳といたしましては、中学生以上の利用者が519人、小学生以下の利用者が179人となっております。平成29年度利用者の年齢割合で申し上げますと、40歳代が全体の46.3%で最も多く、次いで30歳代で28.4%であります。また、二人組で利用された方が全体の34.5%と最も多く、次いで3人組が24.8%となっております。

誘客促進につきましては、3点目のご答弁でも申し上げましたが、本年4月からサップを始めたり、竜神ダム湖対岸に休憩スペース等の設置を検討したりするなど、新たな誘客促進に向けて、ニーズに合ったメニューづくりに取り組んでまいります。

○成井小太郎議長 答弁を求めます。農政部長。

〔武藤範幸農政部長 登壇〕

○武藤範幸農政部長 山間地の農業政策についてのご質問にお答えいたします。

本市の山間地におきましては、イノシシなどによる鳥獣被害の増大、農業者の高齢化や後継者不足等による離農者の増加などにより、荒廃農地が増大し、集落の活力低下が進んでいる現状ではございますが、中山間地域は国土の保全や水源の涵養など多面的機能を有しており、保全管理が必要であることから、本市におきましても、中山間地域と直接支払制度や多面的機能支払交付金などの事業を活用した地域の協働活動を推進することにより、農村環境の保全や地域の活性化を図っているところでございます。

一方、本市の主に北部地域となります中山間地の農業は、特産品であります常陸秋そばや柿などの果樹、農産物直売所や道の駅などを主な販路とした少量多品目による野菜などの生産、畜産業などが主な産業となっております。

また、耕作放棄地や勾配のある地形を活用した花桃やサンゴミズキ、ヤナギなどの枝物栽培をこの間推進しているところでございまして、現在、29名がJA常陸枝物部会太田支部の部員として取り組んで、出荷に向けた栽培の高品質化や生産拡大を進めており、さらには市場における競争力を高めるため、JA枝物部会として今年の7月には、県の花弁銘柄推進産地としての指定を受けたところでございます。

また、特に水府地区におきましては、平成27年度に水府地区活性化推進協議会を組織し、地域の皆様方のご協力をいただきながら、食用柿の産地としての認知度向上の一環として、未利用資源である庭先の柿を活用した加工品、柿の葉茶や漬物などの開発に取り組んでおり、平成31年度の商品化を目指しているところでございます。

また、持方地区の女性グループによるあつみカブの生産とそのカブを活用した漬物の商品化やコンニャクづくり、国安町を拠点に従来より活発に活動をいただいております主婦グループによる農産加工品づくりなど、六次産業化にも積極的に取り組んでいるところでございます。

山間地域は農地の制約などにより、大規模な耕地による農業は困難であることから、今後とも地形や環境等を生かした農業や六次産業化の推進、また地域の皆様方の協同活動やグループ活動

の輪を広げていくとともに、定年帰農者や女性農業者などを含めた新たな農業の担い手を確保し、耕作放棄地の発生防止、農地の有効活用を図りながら、地域の特性を生かした農村集落の維持、活性化と農林業の振興に取り組んでまいります。

○成井小太郎議長 建設部長。

〔真中剛建設部長 登壇〕

○真中剛建設部長 暮らしやすい住環境の整備についてのうち、道路事業に直接関係する内容であります3点のご質問についてお答えいたします。

まず、幹線道路の整備についてのうち、1点目の県道29号線の工事についてでございます。ご質問の県道29号線であります主要地方道常陸太田那須烏山線は県北地域の産業や観光の振興を図るうえで、重要な役割を担ってきており、かつ地域住民の生活を支えてきた道路であります。

茨城県では、平成12年ごろまで事業を進めてきましたが、棚谷町地内の区間につきまして、拡幅を行うには一部に地滑り対策工事が必要な箇所が確認され、その工事に多額の事業費を要することから、現在事業を休止している状況でございます。

現在は、金砂郷地区内における県道常陸那珂港山方線と交差する下宮河内地内を進めております。棚谷町地内につきましては、今後の見通しなどについて、市としましても県に要望、協議してまいりたいと考えております。

2点目の国道461号の仮称北沢トンネル工事の進捗状況でございます。現在、う回路やトンネル坑口までの取り付け道路の改良工事を進めており、今年の秋から冬にかけて始まることが計画されておりますトンネル本体掘削工事に向け、現在作業ヤードなどに着手しており、平成31年度にはトンネル本体掘削を完了し、32年度には、トンネルの附属施設や前後の舗装工事を行い、同年度末に供用開始を目標としておりますとのことでございます。

続きまして、3点目としまして、生活道路の整備についての山田川にかかる市道の桜沢橋の架け替え工事と県道33号線への取り付け道路の改良工事についてでございます。

ここで補足説明させていただきます。ご質問の箇所には桜沢橋としまして2橋ございまして、山田川の支川にかかる県道33号線常陸太田大子線のものと同山田川の本川にかかる市道のもの、このように桜沢橋という同名称の橋梁が2橋ございます。よって、それぞれを「県道の」「市道の」とご説明させていただきます。若干聞きづらい点がありますこと、ご容赦願います。

まず、市道の桜沢橋の架け替え工事につきましては、橋梁長寿命化修繕計画に基づきまして、5年に1度定期的に点検を実施していくことで対応しております。なお、点検結果としましては、一部に腐食が確認されたものの、構造物の機能には支障が生じてないというような状況でございます。

次に、県道33号線への取り付け道路としての市道につきましては、茨城県による県道33号線の桜沢橋の架け替え工事を施工する際に、県が附帯工事としてあわせて市道の取り付けも施工していただくことで、協議を進めているところでございます。

○成井小太郎議長 上下水道部長。

〔江尻伸彦上下水道部長 登壇〕

○江尻伸彦上下水道部長 トンネル工事に伴う水道工事の進め方についてのご質問にお答えいたします。

国道461号仮称北沢トンネルの工事にあわせて事業を進めるため、現在、送水管布設設計並びに配水池の設計を発注し、常陸太田工事事務所と工事のスケジュールや配管工法について協議を進めているところです。

水道工事の進め方につきましては、ただいま建設部長から説明があったように、供用開始予定が平成32年度末となっておりますので、県の改良工事のスケジュールに合わせて里美側から水府側までトンネル内部及び新設改良部分への管路布設を31年度から32年度に実施していきます。

さらに、配水池の新設工事につきましては、トンネルの供用開始以降の工事となりますので、平成33年度に実施してまいります。水道施設の供用開始は平成34年度を計画しております。

また、県で施工する国道349号折橋十文字交差点の改良工事や大沢橋耐震補強工事などが関係いたしますので、常陸太田工事事務所と綿密な調整を図りながら、確実に工事を進めてまいりたいと考えております。

○成井小太郎議長 菊池伸也議員。

〔9番 菊池伸也議員 質問者席へ〕

○9番（菊池伸也議員） ただいまは各項目にわたり詳細なご説明をいただきありがとうございます。 それでは、2回目に入らせていただきますが、2回目は要望のみにとどめさせていただきます。

まず、観光行政の確立であります。①市では、県や観光物産協会と連携して、さまざまな取り組みをしていることは理解をいたしました。たまたまですが、昨日の茨城新聞ではJTBが2018年の下期10月から3月までですが、北関東3県、茨城、栃木、群馬の魅力発信をする全社キャンペーンを実施する旨が報道されておりました。キャッチフレーズは「五色豊穰 また来たくなる感動三国」ということであります。

また、これも偶然なんです。NHKのいば6を見ておりましたら、大井川知事がテレビ出演をしまして、来年の4月からですか、外国の大型クルーズ船が常陸那珂港に停泊して、県内の観光地を巡るということを述べておりました。

先ほどの答弁の中でも、茨城空港を利用する外国人旅行者の誘客を積極的に図っていくと述べられております。ぜひとも、取り組みをしっかりとやっていただけるよう要望しておきます。

また、今までのイベントの中でも、イベント中に大道芸や音楽のコンサートなどを効果的にやっておりましたが、今後ともこういう大道芸なども大いに利用していただきたいと思っております。

また、本市の特産品、これはもう最大限に生かし、お客さんの心をはっきりとこう掴んでいただきたいなと思っております。

それから、先ほどと同じなんです。毎年5月と秋ですか。ひたちなか市にある海浜公園へのお客さんが駐車場に入りきれないほど、順番待ちするほど、このネモフィラの開花時期、あるいは秋のコキアの色づくところに訪れております。ぜひ、この観光客たちに本市まで足を伸ばしてい

ただ工夫もしていただきたいなと要望しておきます。

2の②については、理解をしました。ふるさと村への大型バスの乗り入れができるということは着地型の観光バスツアーの企画をする上においても、施設の効果的な活用という点でも大変すばらしい点だとは思っております。ぜひ取り組んで、ふるさと村の再生を図っていただきたいなと要望しておきます。

③については理解をいたしました。ぜひ今後とも誘客増となるようなイベントを期待しております。

④の竜神ダム湖でのカヌー体験利用客の状況については、昨年と比べると……昨年じゃなくて平成28年度ですか。平成28年度と比較すると、29年度が2倍ほど増えているご答弁であります。

また、本年4月からはサーフボードを使って、サップの体験、さらには、ダム湖の対岸に休憩スペースの設置を検討しているというご答弁がありました。この休憩スペースについては、まだ場所とか何かは決めてないですか。ぜひとも若い人たちの客層が増えるように、すばらしいスペースの確保をしてもらいたいと思います。できれば、私は対岸にあるハイキング道路が使えればすばらしいなとは思っておりますが。大変お金のかかることでしょうかから、それはあきらめておきます。要望しても無理なのかなと思います。

それから、(2)の山間地の農業政策について。

①は農業の担い手がますます高齢化を迎える中においても、執行部ではさまざまな観点から、農村集落の維持活性化と農林業の振興に積極的に取り組んでいくということで理解をいたしました。

それから、2点目の暮らしやすい居住環境の整備についての、幹線道路の整備についてであります。県道29号線については、中止ではなく休止をしている状態ということで理解はできますが、この道路は金砂郷の大藪から棚谷を經由して太田まで来るための公共交通のバス路線でもあります。ぜひ、その地域に住まわれている人々のためにも、県とよく協議をされ、事業を進められることを要望しておきます。

(2)の生活道路の整備についてであります。県道33号線の桜沢橋については理解しておりますが、山田川にかかる桜沢橋については、橋梁長寿命化計画上、修繕をすればまだまだ使用できるということでもあります。雨が集中して降るような場合、山田川の水位が上がり、あるいはダムからの放水等で桜沢からの流れがスムーズにいかなくなり、橋の上に今までも丸太が流れて乗っかっていたというようなことが過去にありました。現実には、橋の高さが水面から低すぎるのではないかなと思います。そのようなことも踏まえて、今後とも長寿命化の検査の折、よく確認していただきたいと思います。

以上で私の一般質問を終わりにします。